

# 令和5度 北進小中学校 学校関係者による評価

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価
		【評点】◎:よい ○:おおむねよい △:よくない		○・△・×
		具体的な取組	達成状況	取組の適切さ
学校経営方針の共通理解	職員は経営参画意識をもって協働していたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重点目標に示した育成を図る資質・能力のキーワードを意識した教育活動が各教科等領域で横断的に指導がなされ、その向上が図られた。</li> <li>●石狩教育局の学校経営指導及び学校教育指導の機会などを生かして、検証改善サイクルの確立に努めた。</li> <li>●めざす子ども像の観点から教育活動を振り返る学校評価を行うことで、方針(目標)、実践、評価が一体化されつつある。</li> </ul>	◎	○
研修活動の充実と業務改善	職員はより専門性を高める研修活動を進めていたか。 職員のライフワークバランスの維持に効果的な取組はなされていたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究主題の究明に向けて、全教員による授業公開を行い、指導・支援の在り方について議論を深めた。</li> <li>●ICT(タブレット)を活用した校内研修により、教員のICT操作の力量があがるとともに、研修の記録のデータ化により研修担当者の負担軽減につながった。</li> <li>●学校閉庁日の設定、変形労働時間制の積極的活用、定時退勤日の設定などのほか、ワークショップ型の研修により、業務改善の視点について個々の考えを共有した。</li> </ul>	◎	○
小中一貫教育の推進	小中併置の強みを生かした学びの連続性により、子どもたちにとって安心な学習環境が整えられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中学校の教員が相互に乗り入れ指導を行ったり、合同学習及び交流学習を意図的に設定したりすることで、子どもたちの自己有用感の高揚のほか、教員の子ども理解が進んだ。</li> <li>●中学生が小学生に読み聞かせを行うなど、上級生が下級生を指導する場面を設定することで相互の心の育ちにつなげることができた。</li> <li>●小中相互の乗り入れ指導や合同学習を年間指導計画に明確に位置付け、教育課程の編成に生かしていくことができた。</li> </ul>	◎	○
地域・保護者との連携	経営の方針や重点を分かりやすく保護者に伝えられたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グランドデザインを地域や保護者の皆さんに配付するとともに学校教育説明会や学校運営協議会などの機会を通じて、その周知を図った。また、学校HPの更新、各種便りでの情報提供を行った。</li> <li>●ふるさと学習の全体計画を踏まえて、地域人材を活用したアイヌ文化学習やキウス周堤墓群の見学などを通して、子どもたちのふるさと意識に対する愛着や意識を高める工夫を講じた。</li> <li>●地域学校協働本部と連携し、歩くスキー、空手、和太鼓などの学習において地域人材を活用し、より専門的で体験的な学習に取り組ませることができた。</li> <li>●学校行事を通して、学校運営協議会や保護者の皆さんと、子どもたちががんばる姿を共有することができた。</li> <li>●感染症対策下で、学校運営協議会を3回開催し、学校経営方針、学校運営、学校評価に関する貴重なご意見をいただいた。</li> </ul>	◎	○
教育課程の編成・実施	子どもたちに求められる資質・能力の育成に向けた教育課程の編成及び実施に努めたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●感染症対策下において、子どもたちの実態と育成を図るべき資質・能力を踏まえて、教育活動のねらいをあらためて問い直し、配列の工夫や代替の教育活動を工夫するとともに、授業時数の確保に努めた。</li> <li>●各教科等領域の関連を図り、教育活動全体で、育成を図る資質・能力として示した自己決定の力、表現する力を育む実践に努めた。</li> <li>●感染症対策については、これまでの経験を生かし、それぞれの教育活動のねらいに応じた内容を設定することができた。</li> <li>●有事における学びの保障に向けて、子どもたちへの指導のほか、PTAと連携したICT活用の研修会を開催した。</li> </ul>	◎	○

学習指導	個に応じた学習内容を進めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別の指導計画の作成と進行管理に当たっては、保護者との合意形成を図りながら、自立に向けた指導について検証改善を繰り返している。</li> <li>●単位時間の学習指導に当たっては、子どもたち個々の発達の様子に合わせて、グループ別の学習形態を工夫したり、複数の教材や個々の目標を設定したりしながら、授業を進めた。</li> <li>●個別最適な学びの実現に向けた、個人用端末の導入に向けた教員研修を進めると同時に、実践の集積を進めた。</li> <li>●協働的な学びの実現に向けては、これまでの合同学習などの集積を生かしつつ、子どもたちの実態を都度検証し、学習内容の配列の工夫などを通してより効果的な学習を仕組んだ。</li> </ul>	◎	○
道徳指導	感謝の気持ちや人に対する優しさを育てることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事や授業での縦割り班活動や、認め励ます指導を通して自己肯定感・自己有用感を高める取組を行った。</li> <li>●感染症に関わる差別や偏見防止に向け、道徳の授業を通して「北進小中学校新型コロナ対策共同宣言」を見直す機会を設定し、再度全校児童生徒で確認した。</li> <li>●道徳推進通信を定期的に発行し、取組の重点を教職員で確認するとともに保護者との共有を図った。</li> </ul>	◎	○
指導体制の確立	深い生徒理解に基づいた生徒指導や教育相談を行うことはできたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●よりきめ細やかな支援を必要とする児童生徒について生徒指導委員会を随時開催した。小中学校の教員が共通してその支援のあり方を共有し、必要と判断した場合には、複数回にわたる保護者との教育相談を行った。</li> <li>●生徒指導委員会で話し合うべき子どもの特定について、学部と各業務分掌との連携を強化し、遺漏なく進めて行くことを確認した。</li> </ul>	◎	○
関係機関との連携	関係機関との連携を図り、適切な対応ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々の子どもたちが置かれている状況によっては、福祉、行政、医療機関、高等支援学校等との連携を図り、多面的なアプローチを模索し、当該の子どもにとってよりよい学習環境の提供に努めた。</li> <li>●感染症対策下でありながら、地域のご厚意によって顔の見える関係が維持されている。</li> </ul>	◎	○
いじめ未然防止	いじめ問題に関わる体制整備や未然防止に向けた取組を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校いじめ防止基本方針の見直しを行い、全体計画及び保護者向けの概要版を作成したほか、いじめアンケートを4回実施し、いじめ対策に対する検証機会とするとともに、いじめの定義及び認知の在り方について職員会議等で研修機会をもった。</li> <li>●教職員一致して子どもたちに寄り添う指導を行い、より良い人間関係の構築に向けた指導・支援を継続した。</li> </ul>	◎	○
児童生徒会活動	集団活動や体験活動等で社会性を育てることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒会主催による全校集会や各種集いの企画運営、日常の活動を通して、児童生徒の自己有用感の高揚に資する活動を行った。</li> <li>●自立活動との関連を図りながら、今年度の重点目標のキーワードである「担い」「認め合う」力を育む意図的な活動を仕組むことができた。</li> </ul>	◎	○
安全指導・安全教育	安全意識を高める指導が適切に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交通安全については、基本的な指導を基盤に歩行学習、買い物学習など体験的な学習と関連付けて理解の深化に努めた。</li> <li>●防災については、引き渡し訓練を含む避難訓練を年3回実施したほか、避難所体験などの防災学習を例年通り行った。</li> <li>●警察署や人権擁護委員会の方などを招聘し、中学生を対象にネットトラブルを含めた防犯教室を開催した。</li> </ul>	○	○
食育指導	基本的な生活・食習慣の確立を図る指導がなされたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栄養教諭による食に関する指導を小中学校それぞれの発達の段階に応じた内容で実施し、日常の給食指導との関連性を図った指導を行った。</li> <li>●保護者を対象とした保健指導を継続し、肥満防止をはじめ、子どもたちの生活習慣や食習慣について共有し、改善に努めた。</li> <li>●肥満傾向が強い子どもたちについては、毎月二計測を継続し、健康管理に対する意識を保護者とともに進めた。</li> </ul>	◎	○

<p>体力向上</p>	<p>体力の向上及び運動習慣の定着に向けた取組が学校としてなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新体力テストについては、複数回実施することを通して、子どもたちが自分の体力の向上を体感できるような手立てを打った。</li> <li>●体力向上プランを改訂し、個別の指導計画との関連性をもたせる中で、その成果を保護者とともに具体的に捉える工夫をした。</li> <li>●体育及び保健体育と自立活動を核に横断的に体力・運動能力、身体機能の向上を図る取組を行った。</li> <li>●外遊びの励行を進め、教員も一緒に遊ぶことで、友達同士での遊びについても少しずつできる子どもが増えている。</li> </ul>	<p>◎</p>	<p>○</p>
<p>職業学習</p>	<p>将来を見据えた就労観・勤労観を養う体験活動を進めることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校3年生を対象とした現場実習(事業所訪問)は、市内事業所の協力のもと行うことができ、子どもたちの職業観の形成、自己有用感の向上に資するものとなった。</li> <li>●中学校1、2年生を対象とした職場体験学習は、市内企業の受注作業について校内で取り組み、働くことの意義の理解を通して自己有用感を高める体験的な学習として教育課程に位置付けた。また、例年行っている小学生全児童の見学及び高学年児童の体験についても、学習の見通しを持たせる良い機会となった。</li> <li>●作業学習について、9年間の学習内容を系統立てて整理した。</li> </ul>	<p>◎</p>	<p>○</p>